総務財政委員会記録(No.7)

1 日 時 令和7年6月12日(木)
午前 9時59分 開会
午前10時36分 閉会

2 場 所 第6委員会室

3 出席委員(10人)

委員 長	村上 幸一	副委員 長	大久保 無我
委員	吉村 太志	委員	鷹木 研一郎
委員	廣田 信也	委員	村上 直樹
委員	宇都宮 亮	委員	永井 佑
委員	伊崎 大義	委員	小金丸かずよし

4 欠席委員(0人)

5 出席説明員

財政・変革局長	武田 信一	市政変革推進室長	星之内 正毅
市政変革推進担当課長	石川 美奈子	市政変革推進担当課長	秋永 充晴
			外 関係職員

6 事務局職員

委員会担当係長	伊良皆 公一	政策担当係長	田中 康雄
---------	--------	--------	-------

7 付議事件及び会議結果

番号	付 議 事 件	会 議 結 果
1	議案第76号 北九州市市税条例の一部を改正する条例の専決処分の報告について	承認並びに可決すべきものと決定した。
2	議案第77号 北九州市市税条例の一部改正について	
3	議案第84号 令和7年度北九州市一般会計補正予算（第1号）のうち所管分	
4	陳情第1号外4件について	別添陳情一覧表のとおり、陳情5件について、閉会中継続審査の申出を行うことを決定した。
5	持続可能な都市経営のあり方について外1件	別添所管事務調査一覧表の事件について、閉会中継続調査の申出を行うことを決定した。
6	行政視察について	7月23日から25日までの3日間で行政視察を行うことを決定した。
7	持続可能な都市経営のあり方について	財政・変革局から別添資料のとおり説明を受けた。

8 会議の経過

○委員長（村上幸一君） それでは、開会いたします。

本日は、議案の採決、陳情の審査及び所管事務の調査を行います。

初めに、議案第76号、77号及び84号のうち所管分の以上3件を一括して議題とします。

これより採決を行います。議案第76号、77号及び84号のうち所管分の以上3件について一括して採決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、一括して採決いたします。

議案3件については、いずれも承認並びに可決すべきものと決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認めます。よって議案3件については、いずれも承認並びに可決すべきものと決定しました。以上で議案の審査を終わります。

なお、委員長報告については、正副委員長に一任をお願いいたします。

次に、陳情の審査を行います。

本委員会に新たに付託された陳情2件を含むお手元配付の一覧表記載の陳情5件については、いずれも閉会中継続審査の申出を行うことに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり。)

御異議なしと認め、そのように決定しました。以上で陳情の審査を終わります。

次に、所管事務の調査を行います。

まず、お手元配付の一覧表記載の事件については、次の定例会までの間、調査を行うこととし、閉会中継続審査の申出を行いたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり。)

御異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に、行政視察についてお諮りします。

本委員会の行政視察について正副委員長案を作成しましたので、お手元配付の資料を御覧ください。

行政視察は、令和7年7月23日から7月25日までの3日間の日程で、相模原市の犯罪被害者支援の取組について、横浜市のDX戦略に基づくデジタル化の推進について、東京都足立区の窓口DXの取組について、浜松市の行政区再編の取組について、それぞれ視察を行いたと思いますが、この案について御質問、御意見はございますか。

皆様いろいろ御提案いただきましたけど、なかなか思う日程と調整とがうまくいかず、こういう形になりました。

それと、あともう一つ、実は参議院選挙の日程によってはこの視察も延期ということもあり得るということだけ、御承知おきいただきたいと思います。

皆さん納得いくものにはいかなかったと思いますが、案について御質問、御意見があれば承りたいと思います。よろしいでしょうか。

(質問、意見なし)

それでは、本案のとおり決定したいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり。)

御異議なしと認め、そのように決定いたしました。

なお、議員派遣要求書を議長宛てに提出しますので、御了承願います。

ここで、次の議題、持続可能な都市経営の在り方についてに係る職員を除き、退出を願います。

(執行部入退室)

次に、持続可能な都市経営の在り方についてを議題といたします。

本日は、第1回市政変革会議について、報告を兼ね、当局の説明を受けます。市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長 それでは、持続可能な都市経営の在り方についての市政変革に関し、令和7年度第1回X会議について御説明いたします。

別紙1、第1回X会議次第を御覧ください。5月23日に開催しました第1回X会議では、令和7年度市政変革の取組の説明の後、外国人定住支援について討議を行い、公共施設マネジメントなど3件の報告を行いました。詳細について資料に沿って御説明いたします。

資料3、令和7年度市政変革の取組を御覧ください。

これから申し上げる資料のページ番号は、タブレットのページ番号で申し上げます。

2ページを御覧ください。集中変革期間初年度である令和6年度は、局区X方針、経営分析、プラチナ市役所プロジェクトの3本柱で取り組み、また、その状況はX会議で市民に公開し、透明性を確保してまいりました。

○委員長（村上幸一君） 着席して、続けてお願いします。

○市政変革推進担当課長 ありがとうございます。

3ページを御覧ください。令和6年度の取組の振り返りとして、成果と今後の課題をまとめております。

4ページを御覧ください。令和7年度は、昨年度の成果や課題を踏まえ、引き続き局区X方針など3本柱で取り組みます。

その際、資料右側の4点にあるとおり、例えば局区X方針では、本質的な課題設定を徹底するなど、また、公共施設マネジメント、政策連携団体ではそれぞれの取組を具体化するなど、取り組んでまいります。

5ページを御覧ください。年間のスケジュールは資料のとおり予定しています。

なお、中段、経営分析、事業分析の欄に記載のあるとおり、5月23日に北九州市ホームページに令和6年度に実施した37クラスターの分析報告書を公開いたしました。

次に、討議事項の外国人定住支援です。

資料5にスライド資料がありますけれども、その概要をまとめた資料6で御説明させていただきます。

資料6、1ページを御覧ください。まず、本市の外国人の現状としまして、外国人市民は増加傾向にあること、居住年数は5年以下が約6割、留学生や技能実習生が多い特徴があります。また、近年では、いわゆる高度人材も増加傾向となっております。本市の施策としましては政策局を中心に展開しておりまして、政策連携団体である国際交流協会が相談窓口や日本語教育等に取り組んでいます。

今回、現場でのヒアリングを通じて分かったこととしまして、市内外国人は多種多様な悩みを抱えていること、相談先は身近な友人や母国のコミュニティーが多いということが分かりました。他都市の事例としましては、浜松市、名古屋市、熊本県菊陽町にヒアリングを行いました。それぞれの訪問先で庁内連携体制の構築状況や政策連携団体との協力体制などについて知

ることができました。

2 ページを御覧ください。ヒアリング等を通じて見えてきた課題と打ち手として、外国人の相談先となっている窓口との連携強化とともに、誰ともつながっていない家族への支援にも取り組んでいく必要があるということ、今後も日常的に生の声を聞く体制が必要であること、外国人の目線に立った現場改善を進めていく必要があること、国際交流協会の体制を強化し、専門人材の確保、育成等を進める必要があること、庁内、庁外の連携体制を整え、オール北九州で取り組んでいく必要があることを報告いたしました。

討議では、高度人材と呼ばれる外国人を誘致すべきではないかといった意見、また、外国人にとってコンフォートなまちづくりを庁内横断でやっていくべきといったような意見がありました。

これらを踏まえ、今後、政策局が具体の検討を行ってまいります。外国人定住支援についての説明は以上です。

資料7、公共施設マネジメントを御覧ください。令和6年10月のX会議におきまして、施設の価値を最大限発揮させ、新たな価値を創出していくという方向性を示しました。昨年度末までに施設所管部署による点検を実施したところでございます。

5 ページを御覧ください。点検により施設所管部局が現段階で整理した施設の方向性から一歩改革を進める必要があると考えておりまして、今年度は市政変革推進室が新たな視点を踏まえた仮説を提示するなどのサポートを行いながら、施設所管部局において、利用者にとって付加価値を高められるような施設の在り方の最適案の検討を行うこととしています。

資料8、政策連携団体の変革による市民サービスの更なる向上について御覧ください。

5 ページを御覧ください。市と政策連携団体の関係見直しを具体化するため、名称を外郭団体から政策連携団体に変更するとともに、管理型の指導調整から公民連携パートナーとして連携協定を締結すること、団体が抱える課題解決に向けた相談窓口を設置することなどの要綱改正を本年4月1日に実施いたしました。

8 ページを御覧ください。今後の取組として、政策連携団体の役割の再定義を実施し、団体個別課題の解決に向け、年度内に方針決定を行う予定としています。

資料9、プラチナ市役所プロジェクトを御覧ください。

2 ページ目から5 ページ目までは、昨年度のプロジェクトにおける課題の進捗、振り返りについてまとめています。

6 ページを御覧ください。資料右側、令和7年度の取組は、市役所全体の労働生産性やエンゲージメントの向上を図り、質の高い行政サービスの提供につなげることを目的に、①昨年度からの課題の検討の継続、33件あります、②各局区が自らの業務について進める自主的な改革をすること、そして、③プロジェクトチームによる検討、この3つに、取り組んでまいります。

第1回会議の発言要旨は、別紙2 議事要旨に記載していますので、御確認ください。

以上で第1回市政変革会議について説明を終わります。

○委員長（村上幸一君） ただいまの説明に対し、質問、意見をお受けします。なお、当局の答弁の際は、補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁を願います。

質問、意見はありませんか。永井委員。

○委員（永井佑君） お願いします。

X会議について、若手職員の発案で改善案がこちらにも報告されていると思います。当日も報告があっていると思いますが、このプロジェクトチーム、このように公開されていますが、X会議の中でいうと、これからもプロジェクトチームの活用というか、設置をされていくと思うんですけど、基本的にはプロジェクトチームをつくればX会議で報告をしていくと、そういう流れになっていくということなんでしょうか。

○委員長（村上幸一君） 市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長 プラチナ市役所プロジェクトの御質問にお答えいたします。

進捗につきましては、今年度のX会議の予定のところで進捗状況を報告してまいりたいと思っております。

チームのほうは、職員を募集してこれから立ち上げますので、ある程度課題の掘り起こしだとか、どういった課題、職員が困っていたり、市民の方が困っていることっていうので改善点があるかというような課題の掘り下げを行った上で、その進捗をX会議には報告させていただきたいと考えております。以上です。

○委員長（村上幸一君） 永井委員。

○委員（永井佑君） それは、X会議に限ってだけということですよ。

○委員長（村上幸一君） 市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長 そうですね、報告の場はX会議とさせていただきます。

○委員長（村上幸一君） 永井委員。

○委員（永井佑君） 分かりました。

そしたら、今後、こういうプロジェクトチームをつくっていくということは、X会議での報告、公開というのが前提にあるということですね。はい、分かりました。

外国人の定住支援について資料を読ませていただいて気になることがありまして、現状、ヒアリングから見えてくる課題として記載がありますが、外国人市民が急増する社会的な変化が起きる可能性があるという現状、将来予測に対し対応が後手に回らないようがあります。現在、市内で外国人の居住者も増えています。その中で住民から寄せられる声として、地域の中で寄せられる声ですね、多く寄せられるのが、ごみの収集日が分からず、散乱する原因となっているという報告もあります。私はごみステーションの表記について確認をその場ですることがありますが、皆さんも御覧になったことがあるかと思いますが、小さい英語表記だけで、特に配慮されているものはありません。実際、環境センターに問合せをすると、こういうふうに改善

できますよとか、多言語で表記をすることはできますよという案内をいただくんですけど、結局、後手になっているわけですね。現状、散乱が確認された後とか、居住者や地域の方から相談があったりとか、SOSがあつてから対応になっているので、こういうところを横断的に議論し、改善させることも必要じゃないかと思いますが、その点の見解を教えてください。

○委員長（村上幸一君） 市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長 外国人の方々が地域の一員として安心して暮らしていくということのためには、日本人、外国人それぞれが異なる文化を理解して、共に信頼を築いていくということが大切になります。外国人の方々が実際に外国人登録されたときには、北九州市においては、生活ルール、ごみ出しのマナーであつたりとか、自転車のルールとか、そういったことを一通り学べるような、そういうガイドブックの提供等も行っているところがございます。

今後、日本人と外国人が共に相互に理解を深めながら、多文化共生というのを推進していく必要、それが大変重要になってくると考えております。以上です。

○委員長（村上幸一君） 永井委員。

○委員（永井佑君） 最初の案内はもちろんなんですけど、実態として間に合っていないという現状があるので、そういうところは、今後、横断的に改善させることも必要じゃないかというお尋ねです。

○委員長（村上幸一君） 市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長 実際にそういったガイドブックで、生活のルール等を外国人の方にお示ししているところですけども、永井委員が今言われた、間に合っていないということですので、現場を担っている例えば、国際交流協会の職員について、そこでさらに外国人への支援を深めていくといったことも引き続き検討してまいりたいと考えております。以上です。

○委員長（村上幸一君） 永井委員。

○委員（永井佑君） 今日お示しいただいた資料の中にはそういう記載があることで、私たちもこういう報告をしていただいているわけなので、ぜひ具体的な対応をしていただきたいと思います。以上です。

○委員長（村上幸一君） ほかに質問、意見はありませんか。伊崎委員。

○委員（伊崎大義君） よろしくお願ひします。

私からも、X会議の外国人定住支援に関して幾つか質問させてください。

1つ目が、ヒアリングを通して見えてきた課題と打ち手ということで、これからその国際交流協会の体制強化は不可欠とあるんですけども、これについて具体的なアイデアは何か会議の中で出たんでしょうか。

○委員長（村上幸一君） 市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長 国際交流協会の強化についてということで、なぜこういった打ち手を我々が考えたかというところからまず御説明いたしますと、今回、ヒアリングで名古屋市に

行きました。名古屋市でも、北九州市の国際交流協会と同様に外郭団体がありまして、そこで日本語教室を行ったりとか、また、相談窓口っていうのをやっているところがございます。現場の気づきとしまして、名古屋市では、国際交流協会の団体が実際に現場に入り込んで、毎年、市のほうに、その気づき、現場で気づいたことをフィードバックする、密にコミュニケーションを取って、翌年度の施策に生かすといったようなこともしていました。そうしたヒアリングを踏まえて、やはり北九州市で国際交流協会を強化していく必要があると考えました。

具体的にどういった点を強化していくのかなんですけども、例えばノウハウとか知識の蓄積、そういったものも一定程度必要になってくるのではないかと思いますし、市との綿密なコミュニケーション、そういったことも、今後、重要になってくるのではないかと考えております。以上です。

○委員長（村上幸一君） 伊崎委員。

○委員（伊崎大義君） おっしゃった点はまさに私も必要だと思っていて、その点であれば、今回のX会議においても当事者を呼ぶべきじゃないかと思っています。外国人をお呼びするのは言語の関係で難しいとしても、外国人に実際に窓口として対応している国際交流協会の方とか、日本語を教えるボランティアの方とかがこの会議の場にいれば、よりリアルな現場の声が聞けるんじゃないかと思っていますが、今回はメンバーを見る限りそういった方は参加していないということでしょうか。

○委員長（村上幸一君） 市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長 まず、会議出席者としては、国際交流協会の職員は、当日その場には、会議には出席していませんでした。ただ、こういった議論を行うということについては、国際交流協会のほうにもお伝えしていますし、あと国際交流協会の職員も実はオブザーバーとして、そういった議論の過程を当日ヒアリングしておりました。以上でございます。

○委員長（村上幸一君） 伊崎委員。

○委員（伊崎大義君） ヒアリングというのも大事ではあると思うんですけど、ぜひその場にいる中で、急に出てきた新しい視点に対して現場の声をっていうのはあると思うので、今後はX会議においても、そういったこの外国人の話だけじゃなくて、実際に現場で対応している方もメンバーとして加えていただけたら、よりリアルな話、現場の声が聞けるんじゃないかなと思っています。

最後に、先ほどの永井委員の話の延長なんですけど、ごみの問題、私もいろいろ海外の方の問題を伺っていて、海外の方も国籍が多様化しているということが資料にもございました。ごみ袋の表記が、英語、中国語、韓国語、ベトナム語の4言語だと思うんですけど、ミャンマー、インドネシア、ネパール、それから、フィリピンも増えているということで、今後、例えばそういった8言語の表記にするなど、そういったこともぜひ議論していただければ、よりそういったルールが伝わりやすくなるんじゃないかなと思っています。今のはあくまで要望です。私

からは以上です。

○委員長（村上幸一君）ほかにありませんか。宇都宮委員。

○委員（宇都宮亮君）おはようございます。よろしくお願いします。

僕も同様に、外国人の定住支援について幾つか御質問があります。

スタートアップビザが去年からどんどん利用者を増やしていていると思うんですけど、今回、5年以上住まれている方っていうのがあまり割合的には少ないっていうところで、そこを増やしていくに当たって、スタートアップビザをどんどん利用してもらって、外国人の起業者も増やすべきであると考えています。

現在のスタートアップビザの利用者数っていかほどなのかをまず教えてください。

○委員長（村上幸一君）市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長 申し訳ございません、スタートアップビザ、政策局もしくは産業経済局になるかもしれませんが、そちらのほうで中心に進めておりまして、市政変革推進室のほうでは、ごめんなさい、今日は把握できておりません。

○委員長（村上幸一君）宇都宮委員。

○委員（宇都宮亮君）分かりました、ありがとうございます。一旦大丈夫です。

○委員長（村上幸一君）よろしいですか。

○委員（宇都宮亮君）はい、大丈夫です。

○委員長（村上幸一君）ほかにございますか。廣田委員どうぞ。

○委員（廣田信也君）おはようございます。よろしくお願いいたします。

僕も外国の市民の方のところなんですけども、国際交流協会と外国の方のケアのほうとか、あとは市と団体でされていらっしゃるかと思うんですけど、実際、現地で海外の方と地元市民の方っていうのが交流とかが、ほぼほぼないのかなと。実際海外の方が近くをよく歩いているのを僕もお見かけするんですけど、やっぱり言語が違うかなっていうので声をかけにくいっていう状況があるので、これはあくまで意見だけなんですけども、そういった方同士、地元の方同士が交流できるような形をつくっていただきたいなどは思っておりますので、それだけお伝えさせていただきます。以上です。

○委員長（村上幸一君）吉村委員。

○委員（吉村太志君）私は、外国人定住支援のほうと、それとプラチナ市役所の件でお尋ねをしたいんですが、今国のほうも、この北九州市もそうなんですけど、生産力が減少して、今後、人口も減少してきている中で、外国人の力というのが僕は必要だと思っております。そのために、今からいろんな受入先を、今こういったものを皆さんで一生懸命考えられて、もっともっと地域の声、そしてまた、外国人の皆さんの声などを聞いてやっていくんだらうなと思うんです。その中で、まず北九州市のおもてなしというところも考えていくのも一つかなというのが、北九州市の人たちっていうのは結構、パフォーマンスは下手くそなんですけど、実際受け入れ

てしまえば、本当におせっかいぐらいな、おせっかい焼きの人たちがたくさん、人情があって、すばらしい町だと私は思っています。そういったものも利用しながら、しっかり外国人の方を受け入れる体制をつくっていくのも今後の課題かなと。

その中で、現実に関企業の方で、建設業とか介護、いろんなあらゆる面で各外国人の方々にもう働いていただいています。その社長、ある会社の社長なんかは、本当に親身になってアパートを借りて、みんなで1週間に1回はバーベキュー大会とか、いろんなもので自分たちのこの北九州市に来てくれたことを感謝しながら、少しでも北九州市の、日本のルールも守っていただきたいという強い思いがあるみたいです。

ここで私もちっと御意見させていただきたいのですが、やはり北九州市に来たからには外国人の方々もただ来ただけではなく、やはり北九州市の歴史であり、ルールであり、しっかり知っていただく、これは先ほどの環境のごみの問題にもなると思います。ごみ捨てのルールとか、これは海外でみんな違いますから、海外で当たり前のことがここでじゃあ北九州市で当たり前かと言ったら違うと思います。そういったものも踏まえて、しっかりと皆さん外国の方にも知っていただくことによって、また、この地元の方々が触れ合って、本当におもてなしでみんなが笑顔で受け入れていただけるのではないかなと思います。

その一つの例として、小倉南区でも、東谷、そしてまた、高蔵校区の方で、外国人の方が地域の行事に来て、朝から地域の高齢者の方々、また、小学生とか若い子たちと一緒にグラウンドゴルフやソフトバレーとか、そういったものを見ている姿を見て、私も、ああ、こういった受け入れをしていくことによって、また、外国の方々も見知らぬ土地に来て不安を払拭できるような、そんなアットホーム的なものも取り入れながら、今からどんどん外国人の移住・定住を支援していただきたいなと思います。これは僕の意見として言わせていただきたいと思っています。

そして、プラチナ市役所の分ですが、各部局の現場の方々、そして、若い方々が、タスクフォース的にみんなで集まって、そして、自分たちの町を考えながらやっているということは僕は非常に素晴らしいことだと思います。これからもこの輪をしっかりと広げていただき、そして、私はいつも今議会でも一つのテーマとしましたが、Z世代の方々に対しても、チャレンジをすること、これは若い世代だけではなく、ここにいる皆さん、私らも含めて、皆さんがチャレンジをできるような環境、そういったものをしっかりつくっていくことが、まずは市役所の皆さんがどんどんそういうふうな環境ができてくれば、これが北九州市民の皆さんの幸せになっていくと思いますので、ぜひこのプラチナ市役所の分も令和7年度も全力で、今までやってきていないことですから、なかなか取り入れられない部分もあると思います。しかし、新しい風を吹かせることは、必ずこの町にとって未来に対しての一番いい投資になると私は思いますので、ぜひやっていただきたいなと思います。最後、少しどういったところが、今からの課題になるか、星之内さん教えてください。

○委員長（村上幸一君） 市政変革推進室長。

○市政変革推進室長 プラチナプロジェクトについてのいろんな期待とともに御指摘ありがとうございます。

昨年度は3チーム、市政変革推進室で、各局区の推薦を受けながら3チームをつかって、そこでいろいろ彼ら彼女らなりのチャレンジな課題点っていうのを出してもらって、実現につなげていったというところがございます。参加したメンバーは、いろいろ苦労もあったんですけども、自分たちの言ったことが、今までは言っても、何ていうんでしょう、抑えつけられていたと思っていたところが、こんなに取り上げてもらえるんだというところは物すごく大きな驚きであったという話をいただいております。そういう意味では、この取組で若い、あるいは現場で最前線で働いている人も、いろいろチャレンジしていけば変わるんだという実感を一つ見せることができたかなと思います。

今回、我々が編成するチームっていうのは、また、2あるいは3程度のチームをつくろうと思っているんですが、実は各局区でも自分たちの区でできるチームをつくろうというようところで、例えば今回、八幡東区役所であったり、八幡西区役所、他の区役所もそれぞれそういうチームをつくったり、本庁でもチームをつくったりっていうのが広がっておりますので、非常に全体としてチャレンジしようという風土が広がりつつあるかなと期待しております。

そういう意味での課題というところですけども、一つには、市役所の内部のルールを変えていこう、働きやすい仕事の生産性を上げるためのルールを変えていこうというのが一つ大きなテーマなんですけど、今回、よりそれにプラスしてできないかなと思うのは、それが結果として市民サービスの向上につながると、実際訪れた、来庁された方にとってもこれまで以上に市のサービスがよくなるし、そして、市の職員側も働きがいであったり、働きやすさも向上するしという、その両方を得るっていうところ、そういった課題を考えてみようっていうのを今回考えています。やってみて、どの程度それが結ぶかっていうのはこれからの努力次第ではあるんですけども、今年度はそういったところを積み上げていければなと思っております。以上でございます。

○委員長（村上幸一君） 吉村委員。

○委員（吉村太志君） ありがとうございます。御丁寧に答弁していただいて、本当にこの輪がどんどん広がって、それがまた挑戦することによって市民の皆さんが本当に笑顔でいられるという、そういった活動をぜひやっていただきたいと思います。チャレンジすることに否定するのではなく、しっかり認めながら、そして、失敗したらそれをみんなで補っていく、ぜひそのためのまず第一線がこの財政・変革局の皆さんがきらきら、ぎらぎらして、しっかりと熱いものをまたどんどんどんどん輪を広げていていただきたいなと思いますので、私も全力で応援していきたいです。ありがとうございます。

○委員長（村上幸一君） ほかにありませんか。小金丸委員。

○委員（小金丸かずよし君） よろしくお願ひいたします。何点か質問と意見を言わせていただきますので、よろしくお願ひします。

私はちょうど昨日、外国人受入れ企業さんの勉強会に参加をさせていただいたんですけども、この3年間ぐらいでネパールの方が非常に増えてきているということでした。非常に能力が高い方が多くて、国内に仕事が少ないということが一つの原因だそうなんですけども、本当に一番というか、優秀な層の方はやっぱりアメリカで働かれないと、その次に選ぶのが中国、インドよりも日本だということをおっしゃっていたんですけども、今この統計上、8ページにある国籍別のところもネパールが令和4年から、がっとう上がってきているなと思うんですけども、その反面、私がちょっと気になったのが、政令市の比較で、北九州市が受入れというか、在留資格者の数が非常に少ないという点と、あとは受入れの環境整備に関する市の予算としては、平成30年が留学生の受入れが非常に多くて、協会の補助金も一番高かったと思うんですけども、令和2年以降が受入れ数が増えているにもかかわらず、予算というのが減ってきているというか、ほぼ横ばいという、その理由というのを教えていただけないかなと思います。

○委員長（村上幸一君） 市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長 ネパールの方が増えているという話がありました。私どもが政策局から聞いている話では、ネパールからの留学生が増えているっていう話は聞いていました。留学生の先輩、後輩のついでで増えている、そういった話を聞いているところでございます。

あと、予算の話なんですけども、申し訳ございません、どういう状況なのかっていうのがちょっと私のほうでは把握できておりません。申し訳ございません。

○委員長（村上幸一君） 小金丸委員。

○委員（小金丸かずよし君） ありがとうございます。すみません、私も可能な限り自分で勉強していきたいと思ひます。

私が住んでいる地域、八幡東区の地域でも、各市民センターに外国人が交流事業とかにかなり参加をさせていただいて、防災訓練であったりとか、清掃活動とかにも積極的に参加をされています。数日前に行われた高槻のほたるまつりのときも、ネパールの方が民族衣装でダンスを披露されたりとか、そういった交流事業が非常に盛んになってきているように感じますので、これからも行政としてできる範囲内での予算づけと交流事業の促進、そして、ある程度日本のルールを学んで取り組んでいただくということを促進していただきたいという要望で終わらせていただきます。

○委員長（村上幸一君） ほかにございませぬか。伊崎委員。

○委員（伊崎大義君） すみませぬ。何度も、失礼します。

今小金丸委員が御質問された予算の件は、恐らく資料を見ていると、留学生受入定着促進（地方創生）っていうのがまるっとなくなっているんで、国の予算が急につかなくなったんじゃないかなと思うんですけど、そのあたりは何か財政・変革局の方とかは御存じないでしょうか。

○委員長（村上幸一君） 市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長 確かに資料の16ページを見る限り、地方創生の予算が令和3年度から減らされていることもございまして、伊崎委員がおっしゃられるとおりにかと思えます。

○委員長（村上幸一君） 伊崎委員。

○委員（伊崎大義君） ありがとうございます。

外国人に関して、私はもともと浜松市に半年ぐらい住んでいて、結構ブラジル人のコミュニティにもいろいろ調査で入っていたんですけど、そのときに浜松市がうまくやっているなと思ったのは、外国人コミュニティと日本人コミュニティをつなぐバイリンガルの人材がかなり充実しているなと思いました。ポルトガル語が堪能な日本人、あとは日本語が堪能なブラジル人、あとはハーフの方とかを窓口にして、それで結構行政もその力を借りながら、ブラジル人コミュニティとコミュニケーションを取っている印象でした。

一方で、それがうまくやれていないのが川口市とか蕨市のクルド人のところだと思っていて、クルド人と日本人をつなぐハブの人が、バイリンガルの人がないのが非常に課題で、それがコミュニティのクオリティーにつながって、ああやって文化的な分断にもつながっている印象です。

なので、ぜひそういう海外のコミュニティとコミュニケーションを取れるキーパーソンをどうつくっていくかというのも一つ大きなテーマとして、今後、役所の中でも検討いただけたらなと思っております。以上、意見です。ありがとうございます。

○委員長（村上幸一君） ほかに質問、意見ありませんか。なければ、以上で本日の所管事務の調査を終わります。

ほかになければ、本日は以上で閉会します。

総務財政委員会 委員長 村上幸一 印